

## バスケットボール部「楽しく、明るく、元気よく」

歯学科4年 本 関 元 希

### ○バスケ部の紹介

私たち歯学部バスケットボール部は男子部18名（プレーヤー13名、マネージャー5名）、女子部15名（プレーヤー12名、マネージャー3名）の計35名で日々活動しています。練習は週2～3日で行っており、5月の連休には北日本大会、夏休みには日本歯科学学生総合体育大会通称オールデンタルという大会があります。部員は皆仲良く、学校生活と部活動を両立しています。また、部員1人1人の個性も強く、非常に楽しい部活となっています。

### ○バスケ部の行事

バスケ部は部活動以外にも様々な行事があります。春にはお花見やキャンプ、夏には浜コンや花火大会、全国各地に行くオールデンタル、冬にはクリスマス会やスノーボー合宿、追いコンなどがあり、また大会の後には飲み会を開催したり、日ごろ私たちを支えてくれているマネージャーの誕生日にはその都度お祝いをしたりしています。このような行事を通して1年生～6年生まで男女問わずとても仲良くなり、絶えず笑顔があふれる部になっています。

### ○今年度のオールデンタルに関して

例年私たちバスケットボール部の戦績は芳しくなかったのですが、去年（2016年度）の大会では男子部は数十年ぶりの決勝進出を果たしました。今年は去年の反省を生かし部活のメニューも大幅に変え、部活が終わった後には走り込みを行い部員全員死ぬ気で練習してきました。そして挑んだ大会でしたが、全試合惜しくも敗北してしまいました。今まで必死に練習してきただけに非常に残念な気持ちでいっぱいでした。しかし、得るもの

も多く、決して努力が報われなかったわけではなかったと感じています。女子部に関しては例年どおり危なげなく決勝に進出し強豪校の風格を醸し出して感服でした。男子部、女子部ともに六年生が完全に引退してしまい、これからは人数も減り練習も満足にできない状況になりつつあります。しかし、私たちは数少ないメンバーで一致団結してより良い部活にできるように頑張っていきます。また外部から練習に来てくれる仲間、仕事の合間をぬってでも来てくれるOBの方々、私たちの部活動の環境が少しでも良くなるようにと経済的な支援をしてくださる先生方、そして存在だけでも部員に安心感を与えてくれるのに、加えて仕事までしてくれるマネージャー、私たちを支えてくれている方々は、自分たちが思っている以上にずっと尊く、そしてとてもありがたい存在であることに日々気付かされ、とても感謝しています。私たちを支えてくださっている全ての皆さまの期待に、部員一同全力のプレーで応えていきたいと思っています。そして、「明るく、楽しく、元気よく」をモットーに部員全員楽しんでいきたいと思っています。



# 卓球部「歯学部卓球部で見つけた答え」

歯学部卓球部主将 田村 洋貴

最近オリンピックや世界選手権での若い男女の日本選手の活躍のおかげで、テレビで卓球の試合を観る方がたくさん増えました。今まで全く関心のなかったダイナミックなドライブの打ち合いや高速ラリーの見過ごえに面白さや興味を持ってもらえるようになりました。卓球の認知度が高まるのが、卓球を愛してやまない部員達にとってうれしい限りです。

ここで少し卓球の楽しさについてお話します。卓球は老若男女、ラケットさえ握れば今すぐに平等にプレーができます。もっと深く言えば、卓球は体力や運動能力に恵まれている人だけが、必ずしも勝つわけではないのです。卓球には、いろいろな戦い方があるからです。手先を器用に使いこなし、頭をフル回転させ、相手の弱点さえわかれば、勝つことができます。市民大会では、幼稚園児から80代と幅広く、中には素晴らしく力強いプレーをする選手にたくさん出会います。皆さんの中には、幼い日の愛ちゃんの姿の記憶があるかと思えます。また、個人スポーツなので、エントリーさえすれば、あらゆる試合に参加できます。それが世代を超え、生涯スポーツとして世界中から長く愛されるわけかもしれません。

さて、今年のデンタルでは、新大卓球部が素晴らしい結果を残すことができました。女子は団体戦準優勝、特に男子は10年ぶりにベスト4という快挙を成し遂げました。入賞の瞬間、恥も外聞もなく全員男泣きでした。部長としてこの瞬間に立ち会えたことが、一生の誇りになりました。私が部長として、一番大切にしたいことは、「楽しくないことを毎日続ける馬鹿はいない、楽しければまた練習に来る。」という一言に尽きます。だから

その人その人にあった楽しい練習メニューを立てたことだけでした。今こんなドヤ顔文章を書いている私ですが、卓球には苦い思い出ばかりでした。

「野球をやりたい。」小学生の私の希望と裏腹に、母が連れて行ったところは卓球場でした。後々その理由を尋ねると、「応援するのに暑くないからね。」という答えが真顔で返ってきました。私は小学生なりに、ユニフォームがダサい、動きがセコイ、やっている人はなぜか暗いというイメージだけでした。しかし開けたドアの向こうは、全く違っていました。一瞬で私を虜にしました。しかし中学は最弱チーム。打つ相手もいなく、県大会以上は進めません。かつての卓球場の仲間が次々入賞していく姿が、羨ましくて仕方ありませんでした。高校は強豪校。当たり前ですが、たくさんの実力者がおり、厳しい練習や規則が窮屈で耐えられませんでした。顧問から「茶髪をとるか、卓球をとるか、どちらかにしろ。」と迫られた時、迷わず茶髪を取りました。しかし頭の隅では、いつでも卓球のことが浮かび、不甲斐ない自分を腹立たしく思う三年間でした。新大に入学した時に、私はもう一度、自分を確かめたくて、歯学部卓球部に入部しました。4年間でたくさんの答えが見つかりました。卓球は何よりも楽しくやるのが大事だということです。楽しんだものが一番強い。私自身も楽しみながら、たくさんの部員仲間、OB・OGの先生方との充実した卓球ライフを満喫しています。

最後に卓球部を支えてくださっているOB・OGの先生方に平日頃の感謝をお伝えするとともに、来年のデンタルでも好成績を狙って部員一同、日々精進いたします。